

事業計画書

2022 年度

公益財団法人JAL財団

目 次

I. 【公益目的事業1】

未来に続く豊かさを地球規模で考え自ら行動できる人財を育成する事業

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. JAL スカラシッププログラム | 2 |
| 2. 世界こどもハイクコンテスト等俳句普及事業 | 2 |
| 3. 「空の日」中学生主要空港派遣事業 | 3 |
| 4. 地球人講座/インターンシップ等研修プログラム | 4 |

II. 【公益目的事業2】

航空と環境の共存を目指すための調査・研究ならびにその成果を実現するための事業

- | | |
|-----------|---|
| 1. 大気観測事業 | 5 |
|-----------|---|

III. 広報活動 5

I.【公益目的事業1】

未来に続く豊かさを地球規模で考え自ら行動できる人財を育成する事業

1. JAL スカラシッププログラム

アジア・オセアニア地域の大学生・大学院生を日本へ招待し、日本人大学生とともに研修や文化交流を体験してもらい、日本への理解や国境を越えた相互理解を促し、将来を担う人財へと育成することを目的として、昭和50年（1975年）に日本航空が始めたこのプログラムについては、平成2年（1990年）より当財団が引き継いで運営を継続している。これまでに海外から参加した学生は1,641名を数えるに到り、その多くが様々な分野で活躍している。

新型コロナウイルス感染症拡大による海外からの渡航者の入国制限が続いたため、2020年度、2021年度のプログラムをやむなく中止した。2022年度のプログラムについても、入国制限緩和の可能性に期待しながら、プログラムの準備を進めてきたが、オミクロン株の影響で感染者数増加が再燃し、海外からの学生受け入れ環境を整備するのが難しい状況と判断せざるを得ない状況となっている。

以上の状況を踏まえて、海外の学生を日本に招聘する従来のプログラム形態での実施は断念し、オンライン形式による研修、日本文化の体験、日本人学生、日本滞在留学生との交流プログラム「2022 JAL スカラシッププログラム（大学生・大学院生対象）」を開催する。

尚、2018年度から19年度にかけて日中交流事業として行った「JAL スカラシッププログラム中学生交流プログラム」及び「日韓中学生対象プログラム」については、2022年度は実施しない。

2. 世界こどもハイクコンテスト等俳句普及事業

世界の青少年へ俳句創作の楽しさを広め、豊かな感性を育み、また、世界でもっとも短い「詩」である俳句を生み出した日本文化や日本への理解の深化を図るために、「世界こどもハイクコンテスト」をはじめとする俳句普及事業を引き続き実施する。

（1）「第17回世界こどもハイクコンテスト」の実施

2021年春から2022年春にかけて、「まち」をテーマに日本と世界各地において開催している「第17回世界こどもハイクコンテスト」（隔年開催で前回は2019年春から

2020 年春に開催) については、2022 年秋までに各国・地域での応募作品審査を行い、大賞、優秀賞の表彰等を行う。また、大賞・優秀賞の作品を集めて、2022 年 3 月までに絵本「地球歳時記 まちのうた(仮称)」として編集し、出版社へ発行を依頼する。発行後、一定部数を買取り、国内外の図書館や教育機関へ寄贈する。

【参考】当ハイクコンテストについては、日本航空(株)が昭和 39 年(1964 年)から不定期に実施していた海外での俳句普及事業を、平成元年(1989 年/財団設立時)より JAL 財団が引き継ぎ、子どもを対象とした定期開催コンテストに改めて継続実施している。なお、日本では五七五音の俳句に、海外では現地語による三行詩(ショートポエム)に、各々俳句にちなんだ情景を自らの手で描いた絵(俳画)を添えた作品を募っている。

(2) 俳句関係行事への協賛

国内で開催される青少年を対象とした俳句関係行事(「松山俳句甲子園」、「熊本『草枕』国際俳句大会」)への協賛を引き続き実施する。なお、これらの大会の会場等において「地球歳時記」やハイクパネル等の展示を行い、「世界こどもハイクコンテスト」を中心とした当財団の取り組みの紹介に努める。

3. 「空の日」中学生主要空港派遣事業

「空の日」(9 月 20 日)記念事業の一環である「空の日」中学生主要空港派遣事業は、次代を担う中学生に、航空や空港に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、平成 4 年度(1992 年度)から実施されており、2019 年度までに 432 名の中学生の参加を得ている。

2022 年度も「『空の日』・『空の旬間』実行委員会」(*)の一員として、この「空の日」中学生主要空港派遣事業の企画・運営を行うこととする。

(*)「空の日」・「空の旬間」、「空の日」・「空の旬間」実行委員会

我が国の航空は、昭和 27 年(1952 年)の民間航空再開から目覚ましい発展を遂げ、今や国民生活に不可欠な交通機関となるとともに、空港は地域発展の核のひとつとなっている。民間航空再開 40 周年にあたる平成 4 年(1992 年)、より多くの国民に航空に対する理解と関心を高めていただくとの趣旨により、9 月 20 日に「空の日」、9 月 20 日～30 日に「空の旬間」が設けられた。また、その趣旨を踏まえて、「空の日」・「空の旬間」事業を実施するために、国土交通省航空局、航空会社、空港関連企業、航空・空港関連公益法人等で構成される『「空の日」・「空の旬間」実行委員会』が設立された。事務局は「一般財団法人日本航空協会」。

4. 地球人講座/インターンシップ等研修プログラム

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、次のプログラムを実施する。

(1) 地球人講座

第一線で活躍する講師による青少年向けの講演会である「地球人講座」を開催する。
2022年度は、集合型講演//オンライン講演の国内、海外開催を予定する。

(2) インターンシップ

国際交流事業の一環として、海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を当財団に招聘し就業機会を提供することにより、日本語能力の向上を促し、日本社会・文化への理解を深めてもらうためのインターンシップ事業を継続して実施する。2022年も既に中国の大学生1名を選出しており春からの招聘を予定している。しかし、未だコロナ禍にあるため、状況を注視しつつ当初のスケジュールの見直しを検討し、安全安心な環境を確保の上で実施すべく準備を進める。また、受け入れ期間中に実施予定の2022JALスカラシッププログラム（大学生・大学院生対象）にも参画させ、アジア・オセアニアの国・地域の学生、日本人学生との交流により相互理解を深める機会を提供する。その他、JALグループ事業への理解を深める場として、関係部署・グループ会社の協力のもとでの施設見学やボランティア参加等の学びの機会も提供する。なお、研修終了時までには独自のテーマについて日本語でまとめた研修レポート作成および研修発表会の実施（社内関係者のみ）を実施し、研修レポートについてはホームページ上で公開することにより、広く一般に国際交流について考えて頂くための材料を提供する。

(3) その他研修プログラム

JALスカラシッププログラム（大学生・大学院生対象）の実施に協力を頂いている公益財団法人東日本鉄道文化財団が取り組まれているアジア諸国鉄道会社の若手社員を対象とした研修の一環として、2022年度も航空事業における安全確保への取り組みを中心に紹介する日本航空(株)整備工場等の視察プログラムを提供する。

Ⅱ.【公益目的事業2】

航空と環境の共存を目指すための調査・研究ならびにその成果を 実現するための事業

1. 大気観測事業

民間航空機に大気中の温室効果ガス濃度等を測定する装置を搭載して、その空間分布の観測を行い、その観測データを国内外の研究者に提供して地球温暖化をもたらす大気変動のメカニズムの解明に資すること、また、それにより地球環境に対する関心を高めることを目的とする当事業に、2022 年度も継続して取り組む。

【参考】この事業では、観測装置の開発、温室効果ガスの測定・研究を国立環境研究所と気象庁気象研究所、観測装置を航空機へ搭載するための当局承認の取得・機体改修等を日本航空(株)、観測装置の運用管理等を(株)ジャムコ、観測体制の充実やデータの公開方法等について意見交換、検討を行う「航空機による地球環境観測推進委員会(前記4者と国土交通省、環境省、地球環境に関する大学研究者等で構成)」の事務局を当財団が努め、共同で推進している。

Ⅲ. 広報活動

当財団の事業・活動内容を広く紹介して、さらなる理解、協力、支援を得て行くために、以下の取り組みを推進する。

- (1) 財団ホームページの充実(リニューアル推進と活動状況のタイムリーな紹介等)
- (2) 「プロジェクトレポート」(年度活動報告書)の内容充実と配布
- (3) 「世界こどもハイクコンテスト」の紹介拡大
 - ① 「地球歳時記」、「ハイク作品絵葉書」の展示・配布場所の開拓
 - ② 「ハイク作品」(バナー・ハガキ等)、「ハイクの作り方(How to make HAIKU)」(冊子)の展示・配布場所の拡大、JAL 機内エンターテインメントへの搭載確保等
 - ③ コンテスト開催にご協力、ご支援を頂く企業・団体等の開拓

以 上